

科目名	民事訴訟法Ⅱ	
担当者	三浦 毅 / MIURA, Takeshi	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	民事訴訟法Ⅰを受講していることを前提に、判決手続における基本原則、証拠法、上訴・再審等についての講義を行います。
	到達目標	民事訴訟法Ⅰの講義内容を踏まえ、審理過程における重要な論点についての学説判例の立場を理解することで、手続のイメージがより具体的に掴めるようになります。
授業計画	(1) ガイダンス（授業の進め方、成績の評価基準など） (2) 裁判所と当事者の役割分担 (3) 基本原則（処分権主義）（217-227） (4) 基本原則（弁論主義①）（228-236） (5) 基本原則（弁論主義②）（237-240） (6) 事実認定（自由心証主義）と証明（241-249） (7) 証拠（249-264） (8) 証明責任（264-272） (9) 証明責任の分配（272-282） (10) 判決の成立と効力（283-308） (11) 上訴と再審①（311-327） (12) 上訴と再審②（327-332） (13) 少額訴訟と督促手続（333-342） (14) 家事紛争と裁判（343-377） (15) まとめ	
自学自習	事前学習	受講者は、教科書の対応ページ（授業計画に示した頁数）を事前に読んでください。また、意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配布されたレジュメや資料の確認、講義内容を復習しておいてください。3回おきに小レポートを課します。
使用教材・参考文献	【教】中野貞一郎『民事裁判入門〔第3版補訂版〕』有斐閣 2012年 ISBN:978-4-641-13623-6 【参】裁判所職員総合研修所監修『民事訴訟法講義案（再訂補訂版）』司法協会 2011年 【参】中野＝松浦＝鈴木『新民事訴訟法講義〔第2版補訂2版〕』有斐閣 2009年 ISBN:978-4-641-09378-2	
成績評価方法と基準	〈基準〉総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。 〈方法〉小レポートの結果(30%)、期末試験の結果（70%）を総合評価します。	
備考	六法（コンパクト六法可）を毎回持参してください。	